

研究報告

哲学及び哲学史講義における VTR 導入による 教育に関する実践研究

学習院大学文学部哲学科准教授 小 島 和 男
学習院大学文学部哲学科非常勤講師 小 川 彩 子

はじめに

本プロジェクトは、哲学の初学者に対する講義科目において、導入 VTR を使用することが如何に効果的であるかを検証するものである。哲学的な諸問題は、日常の中から生まれ出るものではあるものの、哲学的な考え方を持たない初学者にとっては、その思考のプロセスが判然としない。そこで、哲学的な思考を促すための契機となるような導入 VTR を講義開始時に使用することによって、よりスムーズに授業に取り組むことが出来るようになることと仮定して、実際に VTR を使用した授業を行いその成果を検証するのが本プロジェクトの目的である。

1.VTR の制作

まずは、プロジェクト構成員が導入 VTR を制作するところからスタートした。毎回の授業では、授業開始から 10 分程度 VTR を学生に見せる。この VTR は、各回の授業でテーマとする内容を扱い、授業内容をわかりやすく噛み砕いて、先回りして授業の最初に説明してしまうことが狙いである。VTR の中では、具体的な状況を提示したり具体例を用いたりすることによって、登場人物がどのようなことを考えるのか、どのような気持ちになるのかを、ドラマ仕立てでリアルに表現する。そうすることで、登場人物が抱く問題の内容やそれを取り巻く仕組みをヴィヴィッドに伝えていくことを目指す。今回は、先生と生徒が、率直に物事を議論する中から、様々な哲学的な問題が浮き彫りになっていくというようなスタイルで、毎回の VTR を構成した。したがって、この VTR を見ている学生が自身も同じように考えるだろうというような共感を抱いたり、逆にこんなことを考える人は少ないのではないかと、との疑問を感じたり、少なからず VTR に感情移入することで、哲学の問題を自分の身近な問題として捉えることが可能となるような組み立てに仕上げた。

2.プロジェクトの流れ

スケジュールとしては、4 月～7 月にかけて、オリジナル VTR を作成するためのスタッフ人選、テーマ選び、オリジナル VTR の脚本執筆、ロケハンを行い、8 月～9 月にオリジナル VTR 撮影、10 月～2 月の期間に全 6 本のオリジナル VTR の編集作業を終えた。2 月・3 月、実際に VTR を使った模擬講義とアンケートを実施し、年度を越えてしまったが、翌 6 月にも VTR を導入した講義とアンケートを実施した。

3-1.模擬授業及びアンケートの概要

平成 29 年 2 月 18 日、学習院大学において実施。被験者は哲学の講義を未受講の高校生 28 名。学生を半分に分け、2 つの教室でそれぞれ授業を行った。1 つの教室では、プロジェクトで制作した VTR を用

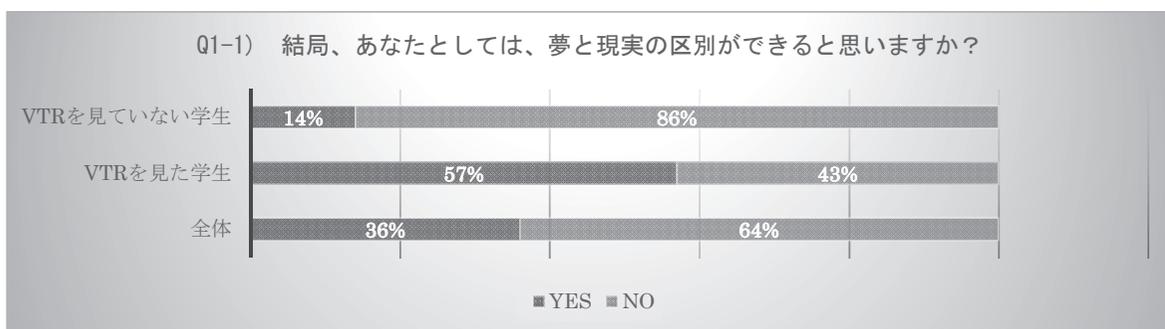
いた模擬授業を行い、もう 1 つの教室では、VTR を用いずに通常の授業を行った。どちらの教室においても、導入 VTR の有無以外の違いはなく、その後の授業ではパワーポイントを用いた通常の講義を行う。また、パワーポイントに則した補助プリントも配布する。1 回につき 50 分の授業を行った。

1 回目の授業が終了したら、2 回目は、学生にそれぞれ教室を移動してもらい、先ほど VTR を見た学生は VTR のない授業を、先ほど VTR のなかった学生は VTR ありの授業を受けてもらった。1 回目と 2 回目の講義内容はそれぞれ別のものである。

1 回目、2 回目と被験する中で、VTR ありの授業においてより理解度が増すという効果が表れることを期待した検証である。最終的に 2 回の講義を受講後に、1 回目・2 回目の理解度を測るアンケートを実施して、今回の模擬授業は終了した。

3-2. アンケートの結果

① 1 回目の講義「この現実が夢でないとは何故言えるのか？」に関するアンケート



Q1-2) なぜ、Q1 の答えを選択しましたか？理由を書いてください。

【VTR を見ていない学生の意見】

- ・ 区別できない・・・何が夢で何が現実化の区切りは誰も知らないから。
- ・ 区別できない・・・自分の感じていることが実際に正しいという確証がないため。
- ・ 区別できる・・・夢は終わりがあから。

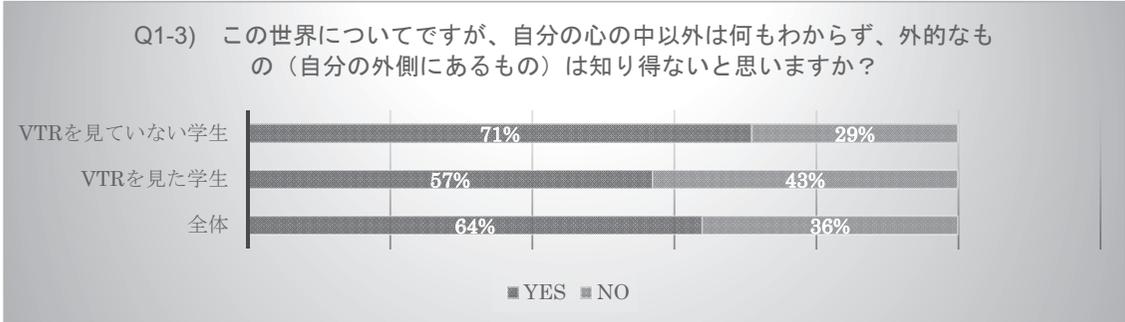
【VTR を見た学生の意見】

- ・ 区別できない・・・当初、区別が出来るものであると思っていたが、今回の授業を受け、自分が Brain in a Vat の可能性も出て来て、疑心暗鬼になってしまった。
- ・ 区別できない・・・夢と現実を区別するための確定的な証拠が無いから。
- ・ 区別できる・・・夢と現実を区別できない、という証明もまたできないので。

【総括】

全体としては、「夢と現実を区別することはできない」とする結論を持つ学生が多かった。この講義では、今この現実と思っている状況が夢である可能性を否定することは難しい、という内容の講義だったため、多くの学生がそれに賛同していることがわかる。ただし、VTR を導入することで、さらにその先を考える学生も出てくるのが分かった。

VTRを見た学生には「夢と現実を区別することはできる」という結論に賛同する学生が57%と半数を超えた。しかし、その理由は、「夢と現実を区別することはできない」という講義内容を証明することもまた不可能である、という上位段階の考察に進むことができたからに他ならない。



Q1-4) なぜ、Q3の答えを選択しましたか？理由を書いてください。

【VTRを見ていない学生の意見】

- ・ 知り得ないと思う・・・理由はわからない。
- ・ 知り得ないと思う・・・自分では面白いと思っけていても、相手がそのことを面白いと思っけているとは限らないし、相手が面白いといっけてもそれが本心とは言い切れないから。
- ・ 知り得ると思う・・・外側にあるものは他人も共通で認識しているものだから、あると言える。

【VTRを見た学生の意見】

- ・ 知り得ないと思う・・・現状、自分の心で思っけていることを通してしか世界を見ることはできないので。
- ・ 知り得ないと思う・・・現在の自分の知識の範囲を超えて、正確に自分の理論を語るとはできないから。
- ・ 知り得ると思う・・・外側にあるもの自体が本当に存在するものなのかもわからないので、知り得ないとは断言できないので。
- ・ 知り得ると思う・・・実際に外側にあるものに接することでは、他者を知ることはできないので。それが人間にとっての「知る」ということの範囲なので。

【総括】

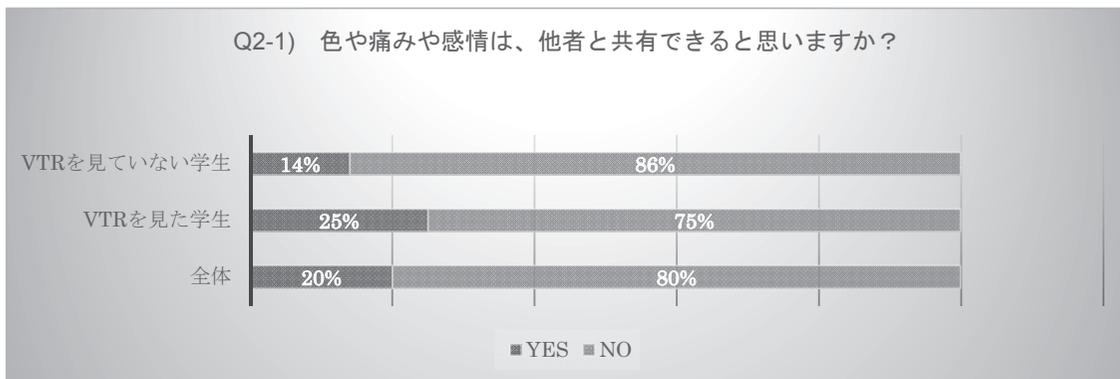
この講義では、自分が今生きていると認識している外的な世界が、確固たる世界である保証はなく、何らかの夢かもしれないし、脳に電極を繋がれて見せられている世界なのかもしれない、というような様々な例を用いて、自分の心以外の外的なものに確証を持ってないということを講じた。したがって、全体としては64%の学生が、外的なものは知り得ないと思うと回答している。

しかしながら、VTRを見ていない学生の意見として、その理由がわからないと答えた者や、趣味嗜好において他者と共感できないといった表面的な意見が散見されたことに注意したい。

また逆に、VTRを見た学生は、外的なものを知り得ると回答した場合にも、そもそも我々人間における

「知る」ということ自体が、我々が外側にあると信じている情報を通じてしか為し得ない、といった人間の能力の根本を問う意見となっていることにも注目したい。

②2 回目の講義「心と脳、それから他者」に関するアンケート



Q2-2) なぜ、Q1 の答えを選択しましたか？理由を書いてください。

【VTR を見ていない学生の意見】

- ・共有できない・・・何かをカワイイと感じる人もいれば、それをそうでもないと感じる人もいるから。
- ・共有できない・・・自分以外の人と感情が一致した経験が全くないから。
- ・共有できる・・・言葉などの表面だけの共有になってしまうが、共有できることには変わらないから。

【VTR を見た学生の意見】

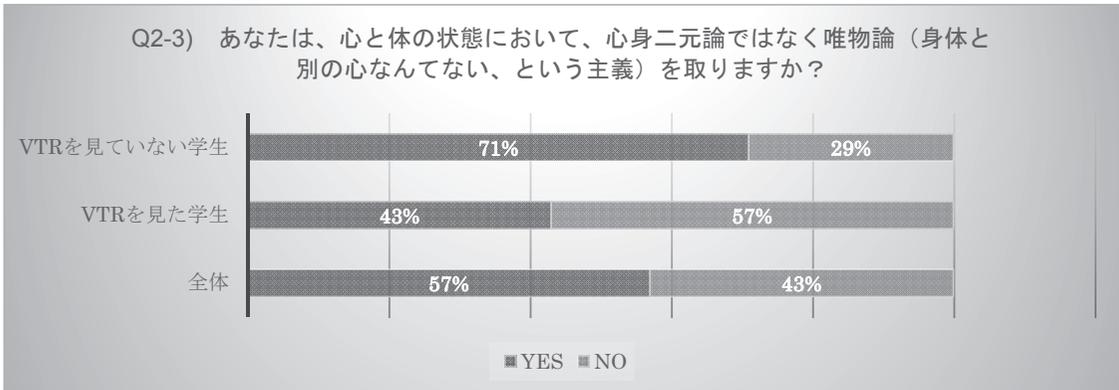
- ・共有できない・・・もし、同じ痛みを味わっても、人それぞれで痛みの感じ方は違うし、共感することはできたとしても共有することはできないから。
- ・共有できない・・・相手の気持ちは推測することしかできないから。
- ・共有できる・・・理論上、感情の他者との共有は難しいが、人と心を通わせることは可能であると思うから。

【総括】

この講義では、自分と同じように生きていると思われる他者に、自分と同じような心のシステムがそもそも備わっているのかすらわからない、という内容を講義した。例えば、あたかも心を持っているかの如く、ある情報をインプットするとそれに相応しい反応をアウトプットできるが、実際には心を備えていない「哲学的ゾンビ」という考え方などを講義した。

その結果として、全体では80%の学生が、感情などを他者と「共有できない」と答えた。しかしながら、中には「共有できる」と回答する学生もあり、VTRを見ていない学生に関しては、表面的な言葉のやり取りで他者と問題なく疎通できているから、といった回答が見つけられた。しかし、VTRを見た学生に関しては、理論上、感情の共有は難しかったとしても、実際にはそれにもかかわらず心を通わせているという実感がある、といったこの講義の内容をさらに一歩進めた回答となっていることは見逃せない。

また VTR を見ていない学生に関しては、「共有できない」と回答しているにもかかわらず、具体的に他者と趣味嗜好において共感したことがなかったから、などの個人的な理由が見出され、人間の思考の根本問題には触れていない傾向が窺える。



Q2-4) なぜ、Q3 の答えを選択しましたか？理由を書いてください。

【VTR を見ていない学生の意見】

- ・唯物論を取る・・・身体は物質的なもののみで構成されているとは思わないので。
- ・唯物論を取る・・・心と体の行動は同時に起こるから。
- ・唯物論を取らない・・・心は別であると考えた方が好きだから。

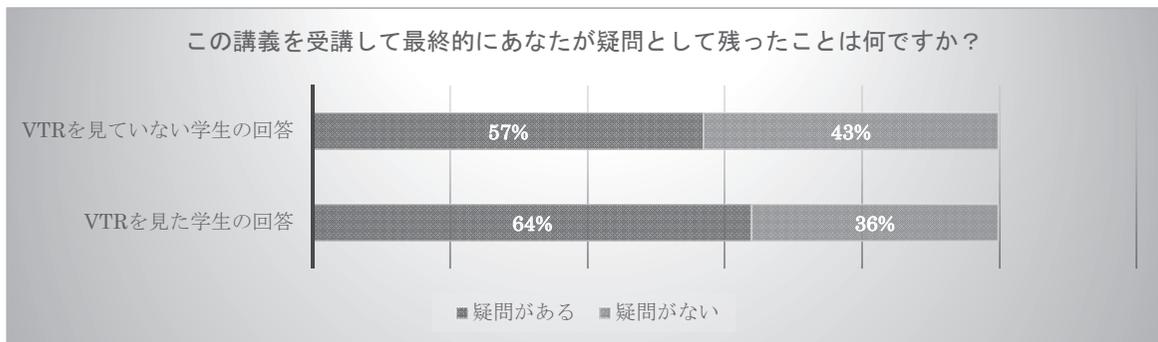
【VTR を見た学生の意見】

- ・唯物論を取る・・・自分の感覚、経験、考えから心へと発達すると思うので。
- ・唯物論を取る・・・そもそも魂というものが無いと考えるから。
- ・唯物論を取らない・・・心の体に与える影響は、脳の働きとはまた別の何か（心）であると思うから。

【総括】

この問いについては基本的に学生が心身二元論を支持しても、唯物論を支持しても、どちらにおいても正当な理由が提示できていれば学習の進度が認められる。例えば、この講義では目に見えない魂や心はあるのか、どのようにあるのか、といった問題を脳と絡めて論じたが、魂や心の問題がすべて脳の刺激等に還元されると考えるのであれば唯物論を支持していることになる。また、脳の刺激等で還元されない感情の起伏や心の味わいを認めたり、「哲学的ゾンビ」の仮説を成立させたりするためには心身二元論を取らねばならない。

VTR を見ていない学生は、唯物論と言っているにもかかわらず、身体＝物質であるという考え方を受け入れていない傾向が目立ち、身体の中に心の要素が含まれているような記述が見受けられた。しかしながら、この傾向は VTR を見た方の学生にも見受けられたので、総じて、「唯物論」の考え方を理解することが難しかったのだと考えられる。



【疑問として挙げた意見】

- ・夢と現実の区別が明確になるまでに、人間の世界への考え方はどう変わっていくのだろうか？ VR 技術が発展していき、今よりもっと曖昧になっていくのではないか？
- ・すべての事柄に対して仮説を立てることはできるが、正しい答えというものが無いので、ほぼほぼ疑問だと思った。
- ・よく哲学が、理解できない・難しいと言われるが、そもそも答えなんてないんだなと感じた。今しなければならぬのは、根拠のある、様々な人が共有することのできる一つの解を求めることなのだと思う。
- ・この世界（意識的に感じる空間）の構造やその有無に関心があります。
- ・魂の存在証明ができないのか興味があります。
- ・感覚の共有は状況によってどの程度まで可能なのか。
- ・現実の定義とは何なのか。

3-3. 模擬授業及びアンケートによる検証の結論

以上が、本プロジェクトにおける模擬講義及びアンケートを実施した結果である。

哲学初学者に対して授業で VTR を用いることは、教員側においてもメリットがあった。そもそも、今取り上げようとしている問題が、そもそもなぜ問題であるのか、それを理解してもらうために導入 VTR を用いることは効果的である。例えば、「この現実が夢でないといふ何故言えるのか？」という講義において、初学者は、そもそも「現実」と「夢」は別物であると考えている。「現実」と「夢」とが区別できないような曖昧なものだとは考えていない。こうした状況において、いきなり「この現実が夢でないといふ何故言えるのか？」と問うたとしても、その問いの意味が分からないし、ましてや身近な問題として興味を示すことができない。しかし、導入 VTR を用いることによって、夢と現実とは明確に区別できるようなものではないのかもしれない、もしかすると今現実だと思っているこの世界は長い夢でしかないのかもしれない、などといった考えを疑問として共有することができるようになるのである。したがって、学生もよりスムーズに講義に進むことが出来るし、教員側にも、言葉を尽くして語っていることのイメージを伝えやすいといった利点がある。

また、アンケートの結果を集計してみると、VTR を見た場合には、講義で語った内容以上に思考の段階を進めることが可能であることが明らかとなった。VTR を見ていない学生においては、講義の内容をなぞるような回答が多かったが、VTR を見た学生においては、それ以上に一歩を進めて、講義の内容

に対してさらに疑問を呈したり、こんなことも言い得るのではないかといったオリジナルな回答が目立った。また、VTRを見た学生の方が、それぞれの回答において、自分なりの意見を提示しているとともに、講義内容に対して疑問を有するようになっていたことも明らかとなった。

講義科目において導入VTRを用いることは、授業を円滑に進める効果とともに、学生の理解度を深めることにも繋がると考えられる。大学の講義において、教員が一方的に講じる90分を過ごすことによって、学生が意見をまとめたり、疑問を有する余裕が持てていないこともしばしばあると考えられる。こうした中で、導入VTRを用いることは時間短縮にも繋がり、その結果、学生から意見を集めたりアクティブラーニングに時間を割くことが可能にもなるだろう。また、抽象的な話をする際に、視覚的なイメージが加わることは、理解の補助になる。アンケート結果及び、こうした講義科目の現状に鑑みるに、導入VTRを用いることはきわめて有効であると考ええる。

4.大学講義での実際の使用及びアンケート調査

2017年6月13日、立正大学の経済学部向けの一般教養科目「哲学とは何か」において、導入VTRを用いた講義を行った。授業自体はパワーポイントを使用し補助プリントを配布する形式である。213名の受講者にアンケートを実施。こちらのアンケートはコメントペーパー形式で、①授業に導入VTRがあることによって、日頃よりも哲学講義の内容が理解しやすくなったと感じるか②分かりにくかった点や、疑問点、もしくは分かりやすかった点や意見などがあれば自由に記述するように、上記2点に触れる形でコメントペーパーを書いてもらった。結果は以下のとおりである。

導入VTRによって理解しやすくなった・・・166名

理解度に変化はない・・・22名

理解しにくかった・・・16名

きちんと回答していない・・・9名

【導入VTRによって理解しやすくなった】

- ・具体的な会話になっているので、イメージしやすかった
- ・レジュメを見る形式だとしてばかり見ていることになるが、動画とパワーポイントで構成されていると前を向いて授業を受けられるので良い
- ・ユニークな登場人物と先生自身が登場しているので興味を持って見る事ができた
- ・画と音と字幕があるので頭に入りやすかった
- ・普段は集中しようと思っても眠くなってしまいうこともあるが、斬新な映像のおかげで集中して聞いた

【理解度に変化はない&理解しにくかった】

- ・映像で複雑なことを言っているの、むしろ混乱した
- ・哲学の意味がどれほど理解できているのかよくわからなくなった
- ・理解は深まるけれど、それ以上に自分たちで討論した方が良かった
- ・動画は面白いけど、面白さの方が優先して、哲学への理解が深まったかはわからない
- ・暗いので眠くなる

- ・暗いので手元のプリントがよく読めない
- ・いつもの授業とさほど変わらない
- ・板書の方が自分で書くので覚えやすいと思う
- ・動画内のやりとりもプリントに書いてほしかった

【総括】

大概の学生に対しては、日常的なやり取りの中に哲学的な問題が含まれていることをより具体的に示すことができたため、導入 VTR を使用することは効果的だと考えられた。ただし、教室内が暗くなってしまうことにより、プリントへの書き込みが困難だったり、眠くなってしまう学生もあるようなので、教室の状態を改善したい。動画自体も、小話のような挿入部分を減らして、もう少しシンプルにわかりやすく、図式的に示す必要があるように感じた。以上の点を今後の課題としたい。

資料 第5話「中野さんの公理」脚本

登場人物・・・小川先生、ゆりかさん、中野さん



小：ハイ、画面の向こうの皆さんこんにちは。哲学の授業の講師の小川です。

ゆ：(元気よくニコニコと) はい、生徒役のゆりかです！ よろしくお願ひします

中：(元気なく暗い感じで) …生徒役の中野です。アンニュイです



小：ん？ どうしたの中野さん、元気ないわね！？

中：はい、つらいです。アンニュイです

小：う～ん、「アンニュイ」って言葉の使い方を盛大に間違っている気もするけどそれはまあいいわ。ところでどうしたの？

ゆ：いや～、それはですね、うちの家族が中野さんのことを「ビリケンさん」って言っているって話をしたらこんなになっちゃって



中：つらいです。超絶アンニュイです

小：う～ん、ビリケンさんだなんて良いあだ名じゃない？ 神様よ、神様。そんなにしょぼんとする意味が分からないわ。そもそもすごく似てるし…

中：あ～、もういいです。もう話しかけないでください (分かりやすく拗ねる)

小：ちょっとお～、おっさんが拗ねてもかわいくないわよ

中：どうせもともとかわいくないですよ

ゆ：…多分問題は、そのうちの家族の中に、中野さんが気になっているところの私の姉がいるっていうところだと思うんですよね

小：ん？ どういうことよ？ いいじゃない、気になっている相手に神様の名前で呼ばれるなんて、光栄以外の何物でもないわよ。私だって学生の時、哲学科のヴィーナスなんて男の子たちから呼ばれてモテモテだったのよ

中：ヴィーナス？ ヴィーナスならいいじゃないですか！

ゆ：ギリシア名で言うと、アフロディテですね

中：うるさい！ ヴィーナスだってアフロディテだって、美と恋の女神でしょ。それならいいですよ。こっちはビリケンですよ、ビリケン。ビリケンだって思っている相手に好意なんていただいていないに決まっています。それはもう分かり切っています。「ユークリッドの5つの公理」くらい当たり前です

ゆ：え？ 本当にそうです？

中：ええ。ビリケンだって思っている相手に好意なんていただいているわけではないです

ゆ：いや、そうじゃなくて。「ユークリッドの5つの公理」ですよ。本当に当たり前ですか？

中：ええ～、そこ？ 今この話の流れでそこ？

小：まあ、いいんじゃない？ ちょっとひとつだけでも試しに検証してみましょう。中野さん、とりあえず一つ目を言ってみて下さい。「ユークリッドの5つの公理」の一つ目。言えます？

中：はい、まあ…えっと、「同じものと等しいものは互いに等しい」でしたっけ！？

ゆ：え？ は？ ちょっと待ってください。それってどういうことですか？

中：またまたまた、ゆりかさんとぼけちゃって。A = B、B = Cだったら、A = Cってことですよ

ゆ：むむむ……どうしてそうなるんですか？

中：いいですか？ ゆりかさん、良く聞いて下さい。「A = B」、「B = C」はいいですか？ この二つの仮定はいいですか？

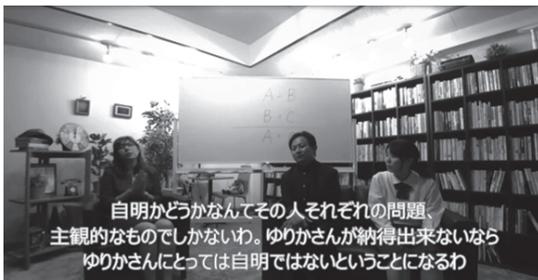
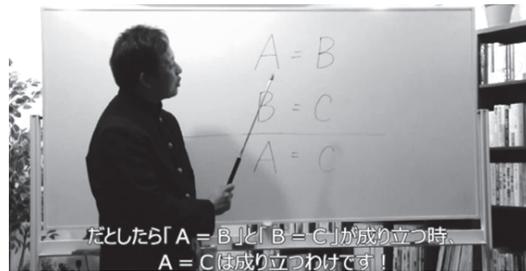
ゆ：それは、いいです

中：だとしたら「A = B」と「B = C」が成り立つ時、A = Cは成り立つわけです！

ゆ：分かりました分かりました。それを言って下さいよ～。その「A = BとB = Cが成り立つ時、A = Cは成り立つ」という3つ目の仮定が必要じゃないですか！？

中：そんなのなくたって自明ですよ？ それは仮定じゃなくて自明な結論です

小：いえ、自明かどうかなんてその人それぞれの問題、主観的なものでしかないわ。ゆりかさんがなってく出来ないならゆりかさんにとっては自明ではないということになるわ。たとえば、生ハムメロン。生ハムメロンを中野さんは認めないわよね？



中：はい。生ハムもメロンも別々に食べてください。それぞれ美味しいものですから。生ハムメロンと称して一緒に、同時に口に放り込んで食べるのは邪道です

小：生ハムとメロンはわけて食う、それが中野さんには自明なこと。でも私やゆりかさんには自明ではないのよ。自明ってそういうことなのよ。

かな〜り、それぞれなの。

中：でもですね、小川先生、「 $A=B$ と $B=C$ が成り立つ時、 $A=C$ は成り立つ」はさすがにみんなに自明じゃないですか？



ゆ：(すごく馬鹿にしたように) 何ですか、そのみんなって!? その「みんな」の構成員を全員、すべての人の名前を言えるものなら言ってみてくださいよ〜。そもそもそういう言い方から差別は始まるんです!!! そもそもそれって「お母さ〜ん、なんとかなんとか買ってよ〜みんな持ってるんだよ〜」っていうクソガキの言い草とどこが違うんですか!!!

中：いやいやいや、全然違いますって。だってあのエウクレイデスが、ユークリッドが言ってるんですよ、「同じものと等しいものは互いに等しい」って

ゆ：はいはいはい、あ〜、もうそりゃあ凄まじいほどの権威主義ですね。もう中野さんにはガッカリです。そういうのは、えらい人には媚び諂い、マイノリティを排除していく危険な思想だと私は思います

中：分かった、分かりました。じゃあ、こうしましょう。もううっとおしいから番号付けますよ。(白板を使う) 1「 $A=B$ 」2「 $B=C$ 」3「1と2が成り立つ時、 $A=C$ は成り立つ」とこの三つを認めてもらって、どうですか? 「 $A=C$ 」これでいいですよね?

ゆ：なんですか、その人を馬鹿にしたようなあきらめたようなそれでいて若干のドヤ顔は?

中：はい、いいですね? $A=C$ ですよ

ゆ：いや、まだ駄目です

小：そうよね、駄目よね?

中：え? なんでなんです?

小：「1と2と3が成り立つ時、 $A=C$ は成り立つ」ってのも必要だと、ゆりかさんは言いたいよね?

ゆ：その通りです

中：え〜でもそんなことやってたら無限に前提が増えてっちゃうじゃないですか! 「 $A=B$ 、 $B=C$ 」だったら、 $A=C$ なんです! 「同じものと等しいものは互いに等しい」んですよ、もういいからそれはそういうことにしておきましょうよ〜

小：だ・か・ら、いい? それが公理の正体なのよ

中：え?

小：「もういいからそれはそういうことにしよう」ってのが公理なわけ

中：う〜ん、まあ、そうですね

ゆ：そうですね、そういうことになりますよね。でもですね、私としてはさらに気になることがあるんです

小：何?

中：なんです?

ゆ：そもそも、そもそもです。そもそも「 $A=B$ 」ってどういうことですか?



小：お、ゆりかさんいいところに気が付いたようね

中：え？

ゆ：う～ん、例えば、「プラトン＝哲学者」じゃないですか？

中：はい

ゆ：「プラトン＝ギリシャ人」じゃないですか？

中：はい、まあ、おそらく

ゆ：じゃあ「哲学者＝ギリシャ人」？

中：え？ すべての哲学者がギリシャ人ってことはないですよ。むしろギリシャ人ではない哲学者の方が多いです。でも、それはですね、ゆりかさん、推論の仕方が間違っているんですけど、私に言わせればそもそもイコールの使い方も間違ってるんですよ。イコールってね、本当に同じじゃなきゃ遣っちゃダメ。一部を表しているとき使うのは微妙だと思います

小：じゃあ、本当にイコールの時のみイコールを使えばいいのね？

中：はい、そうするべきだと思います

小：じゃあ、さっきの「 $A=B$ 、 $B=C$ だったら、 $A=C$ 」
 だけど、「 $A=A$ 、 $A=A$ だったら $A=A$ 」って言っちゃ
 っていいのね？

中：は～～あ？？？ そんなふうにしちゃったら意味ない
 じゃないですか？

小：意味？ 意味って何？

中：だいたいですね、ユークリッドだって、二つの線分があってその二つが本当に同一だなんて思っ
 ないんです。だって二つですもん。位置的にも違いますし。でも、長さを同じものを同じってした
 んです。違うんだけど同じってことにしたんです

小：すると、それが本当に本当のイコールの意味なのよね

中：え？ 何がですか？

小：「違うんだけど同じってことにした」っていうのがイコ
 ールの意味だってことよ

中：まあ、そうですかね

ゆ：だとするとなんだかずいぶんと飛躍があるんですね

小：そうね。だいぶ飛躍があるわね

ゆ：それに、飛躍含みでも何でも勝手に決めちゃえば公理に
 なるわけですよ



小：なっているわね

ゆ：なら、中野さん、「ビリケンだって思っている相手に好
 意なんていただいていない」ってのも中野さんの中で中野
 さんが勝手に決めた思い込みです。うちの姉が中野さん
 に好意を抱いていないとは限りません

中：え、まあ、そう、そうかな…妹のゆりかさんがそう言う
 なら、まあ期待していいのかな…(ちょっとうれしそう)

小：あ、でもビリケンにの男性は私は嫌よ。絶対に嫌。イケメンがいいわ
中&ゆ：え…（絶句して小川先生を見つめる）
（ここで急に終わる）